第3回日本平公園基本計画改定専門委員会 議事録

1 日時 令和7年2月18日(火)午後2時00分～午後4時00分

2 場所 静岡市歴史博物館 講座室

3 出席者 <委員>

五十嵐誠委員長、池谷則義委員、石上順也委員、石山千代委員、小野良平委員、平松玲治委員、森田明雄委員

<事務局>

杉村緑化政策担当部長、杉山公園建設管理課長、鈴木日本平公園建設室長、吉田副主幹、鍋田主任技師、滝澤技師、大滝会計年度任用職員

4 傍聴人 1人

5 議事 (1)開会

(2)議事

- ・第2回改定専門委員会の主な指摘事項について
- ・アンケート調査結果の概要
- ・基本計画改定の方向性の検討について
- ・導入機能・施設のイメージ案について
- ・空間の骨格構成について

(3)閉会挨拶(静岡市緑化政策担当部長)

(4)閉会

6 会議内容

(1)開会(省略)

(2)議事

<五十嵐委員長>

本日の第3回委員会は、前回までに委員の皆様方からいただいた意見をまとめ、第4回委員会に具体的な計画作業を進めるための方向性の紹介があると思いますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思います。事務局から説明をよろしくお願いいたします。

<事務局説明>

<五十嵐委員長>

事務局から説明がありましたが、「前回の指摘事項」について、「アンケート調査結果の概要」について、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

<池谷委員>

前回の委員会で、日本平久能山スマートインターから、日本平山頂へ向かう道路環境について非常に分かりづらいというお話をさせていただきました。

隣接する宮川・水上地区での開発が色々と計画されているということで、どのような形態になるのか分かりませんが、日本平へ行く現状のルートと、新しく誘致しようとしている商業施設との動線分離などについても、新たな道路の検討などを含めてこの委員会の中で検討していただいた方がよろしいのではないかと思います。

<五十嵐委員長>

ありがとうございます。今のご意見に対してどうでしょうか。

<事務局>

当初、我々の委員会の中で、日本平公園へのアクセスの検討を考えていましたが、市で立ち上げた観光に関する横断的なプロジェクトチームの中で日本平、久能山、大谷を含む地域全体のアクセスの検討をすることになりました。そのため、日本平を含む観光地域の周遊につきましては、この委員会では検討しないこととなります。

<五十嵐委員長>

委員としては、「今のパークウェイが本当にこれでいいのか」という質問であり、「公園を魅力的にして人を呼ぶのであれば、そこから考えた方がいいのではないか」という意見だと思えますが。

<事務局>

プロジェクトチームには、当然我々もメンバーに入りますので、そういう提案は伝えられると思います。

周遊のあり方の検討は、この委員会ではなく、プロジェクトチームで行うことになっております。そちらの方から、例えばパーク・アンド・バスライドなどの新たな交通アクセスを提案された場合に、我々としては、それらを受け入れられるような用意はしておきたいと思えます。

<五十嵐委員長>

そうすると当委員会として、パークウェイ等のアクセス道路について意見があれば、それを事務局からプロジェクトチームに共有するということでよろしいですか。

<事務局>

はい。

<池谷委員>

こちらの意向をプロジェクトチームでの検討に入れていただければ我々としてもありがたいと思えます。

<五十嵐委員長>

パークウェイなどについても皆さん色々お考えがあると思いますので、遠慮せず出していただいて、委員会としてまとめてプロジェクトチームに提供していただければということをお願いします。

<事務局>

想定200万人の説明がありましたが、200万人を呼び込むためには、どのようなシステムにしたらいのかというところは検討していきたいと思います。

<森田委員>

静岡大学の前の道ですね。スマートインターから来て、日本平にどのように行ったらいいのか難しいと思います。メイン道路がどこなのか、どのように日本平へ案内するのか、安全性などを考えた場合、今のままだと200万人を達成するにはなかなか大変だなと思います。

<池谷委員>

大谷地区の開発が日本平の200万人を達成するためのいいファクターになると思います。商業施設の帰り際に「せっかく近くに来たんだから日本平に寄ってみようよ。」という方のために、遠回りせず、行き方を分かりやすくしてあげることが、200万人を達成するために必要だと感じます。プロジェクトチームに反映していただければありがたいです。

<五十嵐委員長>

スマートインターから案内は何もないのですか。

<池谷委員>

案内はありますが、インターを降りて右（西）へ案内されます。日本平はインターを降りて東にあります、遠ざかるような案内ですね。せっかく近くにあるのに非常に遠回りです。分かりづらいので、そこを改善していただければ、200万人では十分達成できると思います。

あと、混む時期は決まっています、お正月や、ゴールデンウィークです。日本平に上がるには日本平動物園の前の道路を通らないといけません。その道路がすごく渋滞をするというお話をさせていただいたと思います。

<事務局>

スマートインターを降りて、遠回りになっているというお話が出ましたが、現在あそこで、都市計画道路を新しくつくるための用地買収を進めています。道路部局としては、現在はスマートインターを降りて東側に良い幹線道路がなく、地元の車でいっぱいになってしまうため、大きい幹線道路に回すという意味で遠回りのルートを案内していると思います。

都市計画道路ができてくれば、ルートも変わっていくのかと思います。それまでもう少し時間がかかるかと思いますが、大谷の開発もあるもので、一生懸命やっているといます。こちらでも道路部局と話していきたいと思っています。

<五十嵐委員長>

市内の方から日本平へ上がる動物園の前を通るルートが渋滞してしまっていますが、東名の高架があるため大掛かりな工事となってしまい、道路を広げられないのですよね。ですから、もし今お話しになったようなルートの計画があるのであれば、そこをクリアして別のルートからパークウェイの方に入れるルートをつくる。そこまで行けばこの一番渋滞するルートを通らなくていいという感じはします。いずれにしてもアプローチは、魅力的なものにしていかないと、200万人に対応できないというのは事実だと思います。

<森田委員>

アンケートの結果を見ると、日本平を訪れる目的が景観や風景を見るだけではなくてきているのではないかと感じます。そうすると、おのずと滞在時間は長くなるのではないかと思います。そういった目的で計画を改定していると思いますが、コンセプトと実際の景観が一致しているか、ちょっと心配だなと思います。現状と、これからやることの目的と、滞在時間等を精査して、目的を明確にした方がいいのではないのでしょうか。

<五十嵐委員長>

今お話があったように、単に景色を見て帰るというのは少ない。色々な目的で来て、滞在時間も延びていくでしょうから、それを想定して対応する色々なレクリエーションを考える必要がありますね。

アンケート結果を見ると市内からの来園者が6割となっています。これはどのくらいの回答があったのですか。

<事務局>

564件です。

市のLINE等で周知したため、どうしても市民の方が多くなってしまいかと思います。

<五十嵐委員長>

市内、県外というところがもう少しシビアに出ないのかなという感じがします。

<石山委員>

このアンケートですが、少なくとも3つのクロス集計をしないと、今回の計画に活かせる重要な知見が導き出せないと思います。1つ目は、市民とそれ以外の分けです。2つ目は、来訪経験別で、初めての方、2~5回目くらいの方、ハードリピーターの3つに分けての集計です。3つ目は、交通手段別で、自家用車の方とそれ以外の方。それ以外の方は2割と少ないですが、満足度や他にどこに立ち寄っているかという現状を見ると、自ずと課題が見えてくるのかなと思います。ですので、この3つの形から集計して計画の基本的な分析の第1歩として活かせるといいなと思いました。

<五十嵐委員長>

やはりもう少しシビアに分析できないかということですね。これだけで判断してしまうと、実際と違ってきてしまうのではないかと考えられます。

<事務局>

従来は観光部局で統計を取っていますので、本来はそちらの統計をメインとしてやっていきます。観光部局で取っている統計を入手し傾向を読み取っていきたいと思います。

<石山委員>

そうですね、定点的に取っているものも、今回のものも、いずれにしても、先ほど申し上げたように問題意識を持ち、ターゲット別などで集計していかないと意味がないと思います。実際に挙げている課題などに使えるようなクロス集計をすることが大事かと思います。

<事務局>

次回の委員会でクロス集計など本来的なデータをお示ししたいと思います。

<平松委員>

アンケートについては私も同意見です。石山委員と同じようにしっかり、クロス集計をかけて細かく見ていくべきだと思います。

それともう一つ、アンケートの取り方についても考えてほしいと思います。WEB アンケートという簡単に取れる方法で継続的に取っていくのもいいと思いますが、しっかりとしたデータを取る時には、紙で書いていただくという取り方をするのが通常ですので、そのような方法でやれば、もっといいデータが取れるのではないのかなと思いました。

<五十嵐委員長>

アンケートの仕方については、観光部局でやっているデータを使用するとか、今お話があったようなやり方でもう一度取り組んだらよいのではないかと思います。

それでは続いて、「基本計画改定の方向性」「導入機能・施設のイメージ」「空間の骨格構成」についてご意見をいただきたいと思います。

<池谷委員>

アンケート結果の夜景の部分についてですが、日本夜景遺産に登録をしていただき、今後日本平の滞在時間を延ばしていくためにも必要だろうと、我々観光協会としても日本平夜市やクラシックコンサートを実施するなどして、日本平の夜景に力を入れています。その中で44.9%が「分からない」という回答をしていて非常にショックでした。これを改善していくために、今回の計画の中で日本平の夜景を全国に、国内外に発信するための何か大きなコンテンツというか、そういうものをお考えになっているところがございましたら、お教えいただきたいです。

<事務局>

市の方でも、夜景で頑張っていくという方針でやっており、観光部局で取り組んでいます。そのような中で我々としては、コンテンツ、又はコンテンツができるような基盤をつくっていくのが使命だと考えています。提示されたコンテンツを可能にするような環境づくりというのも我々に課されている課題だと思っておりますので、その両方を計画の中で考えていきたいと考えています。今回のアンケートの回答者は昼間のお客様がほとんどだと思いますので、夜景について「分からない」との回答が多くなってしまったのかと思います。

<事務局>

今、市では、ライトアップに関して石井幹子先生に監修していただき駿府城など市内の何か所かでやっているところです。

<五十嵐委員長>

日本夜景遺産に登録されたとありましたが、それが人を呼ぶものに結びついて行かないともったいないですね。

<小野委員>

「基本計画改定の方向性」のところで2点ほど申し上げます。資料でいうと11、12ページになりますが、「風景」だけではなく広がりを持って基本テーマを設定するという方向性は理解しており、そのことについて異論はありません。また、今回お示しいただいた「基本的な取り組み方針」にも基本的には異論はありません。ただ、12ページの左下の「基本テーマの改定」のところに記載がある「風景の文化財的価値」というのは、国指定名勝日本平の価値と基本的に一致してくるところだと思います。日本平の「保存活用計画」は今後策定されるとのことですが、その「保存活用計画」のプランと、ここの「風景の文化財的価値」というのは一致してくる必要が当然生じます。要は、まだ「保存活用計画」ができていないということは、その「文化財的価値」が必ずしもはっきりしていないということになります。風景だけではないと言っていますが、一番主となる「風景の文化財的価値」というのをこの場でもう少しはっきりしておく必要があるのではないかというのが1点目です。

2点目は、この「風景美術館」というキャッチフレーズですが、当初の考え方からこれを継承していくのは分かりますが、風景からもっと広がりを持ったテーマにするのに、このキャッチフレーズがそのコンセプトに合致しているかという、もう少し他の考え方もあるのかなと思います。と言いますのも、美術館というと、通例はやはり建物や施設的なものをイメージしますので、せっかくの広がりある公園が美術館という比喻で捉えられるというのは、日本平のブランドイメージに有効に働くかどうか、ちょっと気になるなと感じます。

<事務局>

「保存活用計画」を作るというのは割と近年出てきた話で、まさに日本平も「保存管理計画」から「保存活用計画」へと動き出しているところです。我々の公園計画改定の方が少し早く動き出しましたが、これから並行して動いていこうというところです。我々の公園計画も今ある「保存管理計画」からそんなに外れた計画にはならないと思っていますし、可能であれば「保存活用計画」はこちらの公園計画に寄り添ってもらえたらいいのかなと思っています。お互いの計画をすり合わせる事が出来ればと思っています。

<五十嵐委員長>

小野委員が言われたように、方向性が一致するように調整をする必要がありますね。

それともう一つ、「風景美術館」について、この公園計画をつくるに当たって、風景だけではなくもっと幅広になってきているから、建物を意識される美術館というのはどうかというご意見についてはどうですか。

<事務局>

「風景美術館」という言葉はミュージアムというふうに思ってしまうところもありますが、この「風景美術館＝日本平」というテーマは平成18年から日本平ホテルさんや観光協会のホームページなどで使用しているものですから、市民の方に馴染んだキャッチフレーズになっており、使わせて頂いています。

<池谷委員>

私どもが、静岡市さんが策定したものを活用させていただいています。

<小野委員>

「風景美術館」は、ホテルのコンセプトには非常にぴったりだと思うのですが、ホテルを含む公園なので、せっかく今回このコンセプトを見直し展開している中で、従来の風景美術館のままが良いのかという点は、もう少し考えようがないかなというのは感じたところです。

<平松委員>

質問というよりも激励になるのかもしれませんが、目標入園者数200万人という設定についてです。公園の管理をやっている立場からすると、目標設定というのがすごく大事ですが、それを最初に決めてしまうと重荷になってしまうところもあります。目標に合わせた整備を行うことが前提になるのかと思いますが、現在の100万人を倍増させるのはすごく大変なことだと思います。分かりやすいように入園者数で設定したのだと思いますが、それを本当に可能にする計画を策定していただきたいなと思いました。

<事務局>

観光基本計画の成果指標として、一人当たりの観光消費額及び宿泊者数の増を設定していますので、本来でしたらそれに基づいて「日本平公園は観光客の単価をどれくらいに設定してください。」という提示があるといいのですが、中々そのようになっていません。そのため、我々の方でこれまで入込客数を指標にしていたので、今回200万人と設定しました。そうは言いながらも最終的な目標がお金での換算になりますので、200万人来ても消費単価が上がらなければということもあります。そういった中で入込客数でいくのか、消費単価でいくのかというのも今後の検討事項だと思っています。

<五十嵐委員長>

そうかもしれないけれども、市役所の中でアピールするとなったら、「今100万人だけど、この計画をやれば200万人になる。」と胸を叩くぐらいの意気込みでやってもらいたいと思います。

<事務局>

今回、この資料で100万人と記載していますが、今までの観光部局での統計ですと160万人です。今回、協会さんの方で実際に車等の台数調査をしていただき、数量を補正しておそらく100万人であろうということです。その辺の数値をつかんでいく必要があると思っています。100万人から200万人となると倍増させるという形になろうかと思っています。お金をかける以上は、効果を出さないといけませんので。しっかりと根拠の持った数値にしてまいります。

<石山委員>

前回は申し上げたと思いますが、今時「入込客数を倍増します」というのは古いなと思ってしまいます。「持続可能な観光」という流れからいうと逆行している。例えば実人数ではなくて延べ人数で数え、延べ人数を増やす。つまり足繁く通ってくれる人を増やすという説明をする方が大事なのではないかと思えます。

また、滞在時間や満足度を高めていくという目標であれば、きちんと達成できると思います。おそらく市で毎年市民の意識調査をしてると思います。そういった中で、日本平に対する愛着や誇りについて定期的に聞き目標値にするなど、あわせて書いた方がいいのではないかと思います。そうでないと、開発志向、右肩上がり志向の公園計画のような時代遅れな公園計画というイメージになってしまう恐れがあるのかなと懸念しています。

また、「風景美術館」という言葉についてですが、私はいい響きだなと思いつつも、やはりハコモノ的な勘違いを招いてしまう恐れがあるかとも思います。一方で、最近、私どものまちづくりの分野ですと、美術館や博物館や図書館などを、町中博物館とか町中図書館とか、町全体でミュージアムみたいな動きが広がってきています。そういった事例などを説明しながら「日本平全体が風景の美術館なんだよ。」というような説明をする、そういう方向を目指していくのができたらいいのかなと改めて思いました。

<五十嵐委員長>

石山委員、前回委員会で、市民向けの考え方があまり入ってないという指摘をいただき、今回は市民対象の子どもの遊び場などのアイデアを出してきていますが、この辺についてご意見はありますか。

<石山委員>

はい、入っていると拝見しました。ただ、市民や子どもを含めて、これから開発エリアも広がり、たくさんの方が集まれる場になると、逆にそれに伴う危機管理、非常時対策というのがどこに書かれているのだろうかと気になりました。例えば、地震や津波については、日本平は高いから大丈夫だと思いますが、陸の孤島になってしまう可能性もあり得ます。そこで、例えば1週間程度避難できるような体制ができているのかとか、帰宅困難者などを受け入れるような場所が、新しく作るテラスなどに名勝の価値を損ねない範囲でちゃんと確保できるのかということも、人を受け入れる場所として当然求められる基本的な条件だと思いますので、きちんと入れていく必要があるのではないかと思います。

<事務局>

防災対策に関しては、最初に市から説明があったように、エアモビリティの実証実験がこれから始まりますが、その離発着場の候補に日本平が入っています。また、日本平ホテルさんにもヘリコプターで来るお客さんもいらっしゃると思いますので、そういった空のタクシー等の方向で避難していただくことも将来的には考えています。

<石山委員>

観光ってピークとそうでない時期の差が大きいので、何かイベントがあるなど一番人が来ている時にそういうことが起きても一定期間そこで避難生活を送れるような幾つかのパターンを想定していくことが受け入れる側の責任として大事なのかなと思います。

<事務局>

自衛隊の大型救難用輸送ヘリコプターが離発着できるようなスペースは、ゾーン内に入れ込んでいます。

<森田委員>

茶畑があって、海があって富士山というのが代表的な日本平の景観ですが、この茶畑は民有地ですよ。公園の外ではありますが、公園の魅力となっているこの茶畑景観が、将来的に耕作放棄されたり開発されたりという可能性もあるかと思います。そこを持続的に維持するということができるのでしょうか。

<事務局>

それこそ我々の公園と隣接しているところですから、場合によっては、公園区域の拡大も視野に入れております。今は営農してはありますが、この営農維持が困難ということでしたら、公園の区域に入れ、公園管理の中で茶畑を運営していくことも可能性としてはあります。

<五十嵐委員長>

88ヘクタール(都市計画決定区域)の中には入っていますよね。

<事務局>

はい。入っています。

<石上委員>

「空間骨格構成」についてですが、ゴールデンウィークや、年末年始に相当多くのお客様が日本平に来られて、自家用車で大混雑します。そのような中で、多くの方が道路を横断したりして、その影響でまた渋滞してしまっています。今の骨格構成の案を見てみますと、真ん中と左上に2つの駐車場が構成されています。そうすると、横断するお客様が多くなり、バスと自家用車、自家用車と歩行者が交差するということが想定されるのではないかなと思います。そうなるのであれば、どちらかに駐車場を寄せるとか、もう少し離れたところに駐車場をおき、シャトルバスや無人バスなどの交通手段で人を動かすという形にすれば、遊歩道もそれなりにできてくるかと思しますので、そういったことも検討してもいいのかなと思います。今の骨格構成ですと、安全性から見ると少し怖いのかなと思います。

<事務局>

駐車場を整備区域の外に出すということに関しては全然考えていなかったもので、検討したいと思います。交差するかしなかいに関してもかなり重要だと思っていますので、道路を渡るところを制限していこうと考えています。そこに歩道等の動線をかためるような作り方をしていきたいなと思っています。

<森田委員>

園内移動のモビリティを予定しているので、モビリティ動線と歩行者動線と車の動線を具体的に描いていただけると今のお話は見えてくるのかなと思います。

<事務局>

次回用意します。

<池谷委員>

次回具体的な線形を記載いただくということですが、現計画では既存の月日星さんが現状のままの位置ということになっておりますが、そうすると、食材などの搬入路が必要になってくると思います。センターエリアは園内道路の近くに接続しておりますので問題はないと思いますが、ゾーニングの検討の際にそういった食材や機材の搬入のルートもご配慮いただくとありがたいなと思います。

<事務局>

その辺も含めて次回ご提示できればと思います。

<小野委員>

「導入機能・施設」と「骨格構成」についてです。「導入機能・施設」については、非常に多様な価値観があるので、多様なアクティビティのために色々なメニューを用意しているのはよく分かります。ただ、これが適正かどうかということこれから判断していくことになるかと思いますが、空間的にもやや多すぎるかなという気もします。判断していく時に、この色々な活動メニューを1年間のタイムスケジュールの中で示す、さらに1日の時間軸の中に当て込むとどのようなバランスになるのかということを見ていくと、判断ができるのかなと感じたのが1点です。

2点目は、「空間の骨格構成」についてです。考え方について基本的に異論はありませんが、特に27ページの富士山の眺望軸は、抽象的な軸ではなく、幅を持ったベルト状のオープンスペースとして確保するということがかかなり重要なのかなと感じています。そういうことからすると、その前提として、このアプローチ道路をできるだけ西に寄せて、駐車場立体化ということが具体的に繋がってきたと理解したんですが、この駐車場の立体化というのは本当に可能なのか、気になりました。

<事務局>

駐車場の立体化に関しては、日本平ホテルさんの元々の駐車場だった場所ですが、道路から入る時に下がっていて、周りよりも低いところにあるため、立体にしてもあまり立ち上がってきません。表から立ち上がってこない構造にできると断面図を描いて分かったので、今回提案をさせていただきました。普通であれば、3mくらい上がってしまうのですが、元々の盤が低いので、それからさらに上げてみせいで1mのところまで収まり、現実的にも可能なつくりになっています。

<小野委員>

分かりました。今の話を含めて、平面だけでなく断面で議論ができるよう、全体の断面図をもう少し描いていただきたいです。

<事務局>

断面図は次回提示させていただきます。

<石山委員>

空間整備でできることも多いですが、できない部分もあると思います。例えば、管理や運営の話や、財源確保などについての話はこの計画ではしないのかなど。計画の構成の話になりますが、これは次回委員会の議題になるということでしょうか。

<事務局>

予定では、4回目委員会ないし5回目委員会に、その辺の基本的な考え方をご提示したいと思っております。いわゆる事業スキームの話とか管理運営の話です。

<平松委員>

私も今の管理運営の話も気になってましたし、駐車場の立体化の件についても気になっていました。ですから、気になるところは皆さん共通してくるのかなと思いました。今後また検討を進めていく中で、やれること、やれないこと、さらに詳細に決めていかなきゃいけないことが分かってくるのかなと思います。

<五十嵐委員長>

それでは、今日はこれまでということにして、今日いただいたご意見を踏まえ、次回、具体的な計画を検討できるようによろしくお願いします。

今朝、静岡新聞を買って読んだら、市長さんが久能に力を入れてまちづくりをやろうという話が大きく出ていました。そんなことも、日本平公園のこういう話が動き出したから動いているのかもしれない。楽しい話がだんだん出てくると思いますので、これからも委員の皆様よろしくお願いします。それでは、今日はどうもありがとうございました。事務局にお伺いします。

(3) 閉会挨拶(省略)

(4) 閉会(省略)

【議事録署名人】

委員長

委員